

# ちば通研だより No.513

千葉県手話通訳問題研究会（発行責任者）米田 市子（編集者）渡辺 正夫  
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内  
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

## 東京 2025 デフリンピック ～成功裏に終了する～

東京 2025 デフリンピックが、11月15日から26日までの12日間開催されました。日本は、金メダル16個、銀メダル12個、銅メダル23個、総数で51個のメダルを獲得するなど選手が大いに活躍した大会となりました。

選手268人、役員127人、合わせて過去最大規模の395人が参加した大会でした。種目の各会場には多くの応援者が来場し、日本の選手に限らずどの選手にも応援を送っていました。各自治体では大会に親しみを持ってもらえるよう「東京2025 デフリンピック応援隊」を結成し、キャラクターやグッズを作成して応援してくださいました。

デフリンピック開催を機に、障害のある人となない人とのコミュニケーションや情報バリアフリーや情報アクセシビリティを推進し、きこえない人ときこえる人が共に生きる共生社会の実現をめざすため、手話技術を問わないボランティア募集、無料観戦など創意工夫を凝らして交流の場が設けられました。

また、市街ではデジタル技術を駆使したユニバーサルコミュニケーション機器が競技会場や周辺などに設置されました。日常生活において、障害の有無、母国語の違い等に関わらず、必要な情報がより多くの人に届き、また意思疎通が可能になる環境を創り出したとも言えます。

大会終了後、このようにきこえない、きこえにくい人が私たちきこえる人と同等の権利が等しく受けられる共生社会を目指して、手話の関係者だけでなくこれから社会を担っていく子どもたちや若い世代に届くよう願ってやみません。

11月23日時点でのちば通研の会員数は333人  
(読者会員会員数は12人)  
2025年度の目標数は350人です  
数は力！みんなで会員を増やしましょう～



しゅわりん

## デフリンピック 開会式の報告

東京 2025 デフリンピック開会式中継会は、映画館のような大きなモニターでの観覧でした。日本教育会館3階に上がると後方でグッズ販売をしていました。

会場に入ると競技の紹介が大きな画面に流れていました。外国の方も多く参加され選手入場で自国が紹介されると立ち上がって拍手を求めるアクション！ まわりもそのアクションに応じて盛り上がり、楽しい雰囲気で開催を観ることができました。

開会式前に関係者の方々のデフリンピック開催までの苦労、思い、などの話を聞かせていただき、応援の練習、参加者全員での記念撮影もあり、とても充実した時間になりました。



(事務局 原 公代)

## デフリンピック 閉会式の報告

聴覚障害者による国際スポーツ大会「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025」が11月15日から26日まで各地域で開催されました。

開会式はテレビで阿波踊りに迎えられて各国の選手が手を振り笑顔で入場しているのがとても印象的でした。開会式には行けませんでした。11月26日の閉会式には手話サークルの仲間6人と行きました。



千駄ヶ谷駅の目の前に東京体育館があり駅員さんも手話で迎えてくれて嬉しい気持ちになり、会場に入りました。早めについたのでサインマームを見ることができました。

午後4時30分頃、閉会式に佳子内親王が出席されました。

各国の選手旗が大きなスクリーンに映し出され手話狂言、手話歌舞伎に迎えられ入場しました。

全日本ろうあ連盟理事長石橋大吾氏と東京都知事小池百合子氏があいさつをされ、ICSD 会長アダム・コーサ氏の閉会宣言がありました。

デフリンピック旗がゆっくり降ろされ、その旗はデフリンピック運営委員会の久松三二委員長から ICSD コーサ会長に渡されました。その瞬間、これまでの各国の選手の皆さん、スタッフの皆さんの活躍を振り返り感動しました。

最後に「ボンミライ」の踊りを振付師の掛け声と身振りで会場が一つになって楽しく踊り、その後皆さんと名残惜しく解散しました。

4年後に会いましょう、希望は決して終わりません。

(富里班 國司 恵子)

## デフリンピック 応援して

① 11月22日(土)、地元のろう協と一緒に貸切バスで観戦に行きました。東京アクアティクスセンターの水泳では、選手のがっしりとした体格や、綺麗な泳ぎは圧巻でした。海外の選手がデフリンピック世界新記録を出したときには、会場内が沸き上がりました。

有明テニスの森では、女子ダブルス日本 vs フランスの試合を観戦。力強いラリーが続き、選手の息づかいも聞こえるほど…迫力ある試合でした。時間の都合もあり、どちらも最後まで観ることができなかったことは残念でしたが、競技を間近で観られとても嬉しく、貴重な時間となりました。もっともっと、たくさんの試合を観戦したかったです。

また、それぞれの会場で使用されているいろいろな装置、工夫などが更に広まることでデフ選手の活躍の場が増えることと、再び日本で開催されることを期待しています。  
(海匠地域班 鵜飼 美奈子)

② ボランティア・開会式・閉会式に申し込むも全て叶わず応援で参加しました。バレーボール・陸上・ハンドボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・サッカー。

一生懸命な各国選手の姿に、たくさんの感動をいただきました。競技によって情報保障も様々。卓球では「ミルオト」と言うシステムでラケットやボールの「カッ」「コッ」等の音が文字化、拍手や歓声なども映像の中に表示されていました。

Jヴィレッジの男子準々決勝では開場を待つ間、野田市の瀧澤選手の話に意気投合した方たちと一緒に観戦。喜びを分かち合えました。あまりの感動に準決勝・決勝も観戦。嵩んだ交通費で懐が寒いですが、心に残る、とても充実した日々となりました。

(成田班 辻 秀子)

## 秋穫祭 報告

11月23日(日・祝)、千葉聴覚障害者センターで恒例の秋穫祭が開催されました。

今年は「東京2025デフリンピック」の開催にともない、県協会が企画した海外のデフアスリートや関係者の方々へのおもてなしイベント事業と重なったため、ろう者の芸術文化展(美術・写真・工芸品)の展示、日本カルチャー講座(茶道・習字)の体験コーナー、日本ろうあ文化講座(映像・ろうの歴史・手話講座)なども行われていました。販売コーナーでは、恒例のらいおんグループの野菜や手作り品、クッキー、パウンドケーキなど、また外ではキッチンカーが2台、フランクフルトやスパイシーカレーのいい香り。千葉市内の有名なおにぎり屋さんも出店していました。ちば通研は、新米、お米すくい、さつまいもと柿の詰め放題、缶バッジ、落花生、海苔の佃煮と盛りだくさん。バザーや書籍の販売も行いました。イベントが重なったこともあり、いつもより参加者は少なかったですが、養成講座の受講生やきこえない方々が訪れ、いつまでも外のテーブルでおしゃべりに花を咲かせていました。

(会長 米田 市子)

## 「福祉の現場を経験して しろろが語る！」 Vol.9

### 自立支援協議会会長としての所感

「地域診断」かつて福祉関係者がよく口にした言葉ですが今では聞かなくなりました。「地域の共通ニーズを整理し市民の生活向上のため必要な社会資源の現況を明確化する試み」地域に存在するサービスの過不足の実情を検証して見直すという壮大な作業ですが、そのためには官民協働で地域の共通ニーズを丹念に拾い上げ言語化する。ニーズを見極め抽出し当面する課題に優先順位をつけ不足の資源の開拓を提言して施策へ反映させる。

本来地域自立支援協議会等がそういう役割を担うのですが、残念なことに私が住む市では協議会の提言は課長段階でほとんど却下でした。(唯一実現したのは「基幹相談支援センター」で、現市長が市議会議員当時要望した成果です)。

「多職種連携」が叫ばれる時代。私は制度が複雑化し、多くの専門職が次々誕生した割に地域の障害者の暮らしは以前とあまり変わってないように感じます。窓口が多様化したことで利用者にとって逆に分かりづらくなっている結果誰も責任をとらなくてよい構造となった気さえます。それは会議の持ち方のタイミング(いつどこで誰が)一つにしても同じです。多様な専門職は行政・民間にたくさんいても、関係者が多いほど各自が所属する機関や法人の権益を優先するため、当事者を中心に置いて困りごとに対し各自果たすべき役割を確認し一歩踏み込む「全体調整」が困難となっています。

その代表例が利用者のサービスを特定グループ事業所で独占・完結しようとする「サービスの囲込み」。例えば施設入所者の計画相談は自法人の相談部門職員で独占しプランニングするため外部の目が一切入らない。また GH 入居者の訪問看護や移動支援を結託する法人事業所で完結する例は多く、計画相談事業に本来求められる「中立・公正」が有名無実化している現実を私は嘆かわしい思いで見つめているところです。(関係者しか知らない現実)

そうした課題に対しては監査権限を持つ行政がきちんと目を光らせるべきなのですが、行政の地域ニーズの整理認識能力・全体調整能力には今も昔も力量不足を感じています。

### 支援を受ける側の力 (エンパワメント)

「エンパワメント」は現代の福祉のキーワードの一つ。「本人が持つ潜在的な自己決定力や問題解決力を信じてそれを上手に引き出し伸ばす」支援の大切な理念です。「私の住む所は私が決める」障害者の権利条約のスローガンですが「どんな重度の人にも本人に意思決定の力はある」と確信できている支援者が日本にどれだけいるでしょうか。

私は重度心身障害者の支援にも関わりましたが、ちゃんと意思は通じ合えました。私たちは常に「利用者の持つ力や本音を上手に引き出せる支援者になれているか」自問自答しつつ自らの資質を磨かねばなりません。

### 各関係者が本来の自らの役割を自覚しつつ 少しずつ本人のために力を出し合うこと

参加者が忌憚なく意見を言い合える関係は大切なことです。でも各自の「価値観のものさし」から検証しあわないと会議自体あまり意味を持ちません。要はそれぞれの機関のメンバーが、本人の暮らしを中心軸に少しずつ力を出し合える関係をどう築いていけるか。特定の人に負担がかかる関係は長続きしない。また組織としてつながる努力を怠ると、メンバーが異動等で替わるとネットワークがちまち途切れとなります。

ニーズに応じてそれぞれが一定の役割を担い補完しあう関係作り。それが本人の生活の具体的改善につながるとみんなで実感できた時、それが「価値あるチームの実践」と言えるのだろうと私は考えます。

(黒岩史郎) 次回に続く⇒



## 医療班コーナー

目に異常を感じたら、早めに眼科受診をしましょう！！

### 加齢黄斑変性

加齢により網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、見ようとするところが見えにくくなる病気です。

日本では失明原因の第4位となっています。50歳以上の人の約1%にみられ、高齢になるほど多くみられます。

加齢黄斑変性には萎縮型と滲出型の2つの種類があります。

#### 【症状】

##### ・変視症

網膜の腫れや網膜の下に液体が溜まると網膜がゆがみ、物がゆがんで見えます。

中心部はゆがんで見えますが、周辺部は正しく見えます

##### ・視力低下、中心暗点

視野の中心が見えなくなり（中心暗点）、視力が低下します。進行すると運転免許の更新や字を読んだりすることができなくなります。

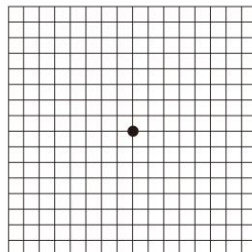
通常、視力低下は徐々に進行し、治療をしなければ多くの患者さんで視力が0.1以下になります。

網膜下に大きな出血が起こると突然、著しい視力低下が起こることがあります。

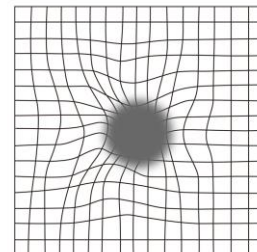
##### ・色覚異常

症状が進んでくると色が分からなくなってきます。

正常な見え方



加齢黄斑変性の見え方



#### 【検査】

正しく診断するためには、眼底検査や造影検査などの詳しい検査が必要です。

#### 【治療】

##### ・萎縮型の加齢黄斑変性

残念ながら萎縮型の加齢黄斑変性には現在のところ治療方法はありません。

##### ・滲出型の加齢黄斑変性

(1) 薬物治療 (2) 光線力学的療法 (3) レーザー凝固 (4) 手術

#### 【予防】

- (1) 禁煙
- (2) サプリメント：ビタミンC、ビタミンE、 $\beta$ カロチン、亜鉛など
- (3) 食事：緑黄色野菜、肉中心の食事より魚中心の食事

参考：公益財団法人日本眼科学会 <https://www.nichigan.or.jp/public/disease/>



## 保育♡子育て支援班

秋から冬にかけて各地域でイベントが多いので、皆さんお忙しいことと思います。近年、子ども達も同様に忙しい毎日です。

学生は部活や習い事の試合や発表会、文化祭など。

園児も運動会、発表会、ハロウィン、クリスマス、餅つきとあり、保育者はこの時期、普段の保育に気を配りながら準備に追われる毎日です。

そんな中、私達ちば通研保育・子育て支援班も1月25日（土）に聴覚障害者の子育て経験や現状を知るミニ座談会を企画中です。

コロナ禍前には、そのような学習会をしていましたが、しばらく行っていませんでした。

新たに通研会員になった方や、養成講座受講中の方々にも是非参加していただき、聞こえない中での子育てや暮らしを直に感じてほしいと思います。

もちろん、みなさんの経験談もありがたいです。

（保育・子育て支援班班長 渡辺 裕美）

## デフリンピックが11月に開催（その8）

開幕したデフリンピックで、私はテニス会場の案内や誘導を担当しました。事前にはインフォメーションデスクや補食の用意、ウォーターサーバーの管理など、いろいろな仕事があると聞いていたのですが、実際に任されたのは練習コートの入口でのIDチェックでした。ところが練習コートを利用する選手が少なく、交流の機会も限られました。それでも国際大会ならではのあたたかい出会いがありました。アメリカの選手が私の「ハロー」に、日本手話で「おはようございます」「ありがとう」と返してくれたこと。ほんの一言でも手話で気持ちが通じた瞬間はとても印象に残りました。他の国の選手とも簡単な手話やアイコンタクトだけで自然と笑顔になれたり、デンマークの選手とは一緒に写真を撮っていただいたりと、短いながらも心温まる交流もありました。

3日目には通常業務に加え、試合会場で来場者へリストバンドを配布しました。女子ダブルス決勝、しかも日本人同士の対戦ということで多くの来場者が訪れ、活気に満ちた中で楽しく活動できました。また昼休憩中には、キッチンカーで店員の声が聞き取れず、注文のタイミングがわからずにいたろう者に声をかけ、短い時間でしたが手話で会話ができました。こうした何気ない瞬間もとても心に残っています。

今回のボランティアを通して、ろう者・聴者・国籍に関係なく手話と+αでつながる嬉しさを改めて実感しました。

（船橋班 福原 和子）

## 私のイチオシ

…印西班…

### 「長く手話に関わってこられたコツ、モチベーション」

「コツってあるのかなあ」正直考えたこともありませんでした。  
でも、長いのは事実です。いい機会をいただいたので改めて考えてみました。  
「手話」は、ひとことでは言い表せません。樹（立ち木）のようなもの。  
木には根っこがあり枝があります。その枝に葉が茂り、花が咲き実になります。  
真っすぐ立っている木もあれば倒れそうな木もあります。根っこが大事ですね。  
手話だけを見るのではなく人を見る。  
聞こえない人たちの暮らしや文化に寄り添い関わっていくことが大切です。  
続けたいと思っても人それぞれの人生や事情があります。  
途中で止めても周りのやさしさがあれば又続けることができます。  
統一試験のために、長い間頑張ってこられた方の時間を無駄にしない支援が  
できればと思います。  
手話を楽しく学べる居場所があれば離れることもないでしょう。  
手話通訳を目的に頑張っている人、そうでない人、目的もいろいろです。  
私自身振り返ってみると、「喜怒哀楽」ですね。  
楽しいが勝っていましたが涙あり眠れない夜もありました。  
当然外出も増えます。「手話と家族とどちらが大事？」と問われ「どちらも大事」  
と気丈に答えていました。  
手話との出会いのおかげで多くの仲間ができました。  
地元のサークル、県、全国にいる仲間と共に歩んでいきたいと願っています。  
交流、運動を通して様々な情報収集ができました。  
前向きに物事を考え進めていくには「モチベーション」を持つことが大切です。  
壁にぶつかってもお互いの支え合いがあれば大丈夫。  
何でも言い合える関係性が救ってくれます。  
尊敬できる先輩、あこがれの先輩も大勢います。  
笑顔は副作用のない薬。自分の歩幅で歩けばいい。  
手話は上手下手ではなく自分らしくいられること。  
コツコツ続けること。伝える気持ちが大切です。  
私にとっての一番は「手話の魅力」につきるでしょう。  
手話の魅力に出会った皆さんの人生も豊かに広がっていくことでしょう。

(宇治 昌子)



## 地域班通信

船橋班：先日学生時代の還暦仲間9人でディズニーシーに行きました。赤チャンちゃんコを持参しグリーティングでお気に入りのキャラクターと記念写真を撮りました。胸には還暦シールを貼っていたので至る所でおめでとうの声をかけていただきました。しかし若い方は還暦を知らない人もいて説明の場面もありました。  
(アオイ)

市原班：市原市を走る小湊鉄道の駅は古びたものが多いですが、上総牛久駅もなかなかの貫禄です。その駅舎の一隅、待合室の横に一坪ほどのコーヒースタンドがあります。スタイリッシュな店構えとレトロな駅舎は対照的で、以前から気になっていましたが、先日ようやく訪ねることができました。評判通りのおいしいコーヒーでした。

市原班では、ろう協、サークルと一緒に手話施策推進法や手話言語条例についての学習会を定期的に行っています。10月には植野所長のご講演を拝聴しました。ろう運動、歴史、文化を正しく理解して、地域で暮らしやすい制度づくりができるよう、学習を続けていきたいと思えます。

成田班：9月に手話通訳技能認定試験の実技試験を受けてきました。手も足も出ませんでした。西武池袋線のプラットホームに流れる中森明菜さんの「DESIRE-情熱-」と「セカンド・ラブ」を聞きながら、知り合いの外国語通訳の方々（イタリア語、ロシア語）のことを思い出していました。あの方たちは、今日の試験よりも10数倍も難しい内容をいとも簡単に通訳していたなあ。実務で使える通訳者の方々にとって本日の試験のレベルは、入門レベル、掌に息を吹きかけるレベルなのだなあ。いまさらながら当たり前のことに気づき、池袋パルコでローマ名物バスタを食べ、「実力は低くても意識だけは高く持とう」と誓った日曜日でした。  
(マケドニア太郎)

習志野班：とうとう12月。泣いても笑っても今年あと1ヶ月となりました。今年6月に手話言語施策推進法が施行され、11月にはデフリンピックが日本で初めて開催され手話が注目された年でした。これを足掛かりとして、更なる手話言語の周知が図られ、手話がますます一般の方々にも身近に感じられるようになって欲しいと思えます。

富里班：私はスポーツが苦手で、体育の授業や運動会、マラソン大会はいつも憂鬱でした。大人になって走ることなどないはずだったのに、息子の運動会のPTAリレーを断りきれず… 只々転ばずに走れたことが、せめてもの救いだったことを思い出します。スポーツが得意な人は素晴らしい！！  
デフリンピックに出場の全ての選手に心から拍手を贈ります。



流山班：開催前のデフリンピック関連のニュースなどがテレビで放映されている今、改めて手話に注目が集まっています。「手話トピックス」というXアカウントで、東京新聞で「手話通訳の実情」が紹介されています。法律や条例の進む中いろいろな角度から注目されていることを感じました。(emiko)

鎌ヶ谷班：楽しみにしていたお出かけのたびに、雨模様になってしまう私。「雨女」を通り越して「妖怪あめふらし」の異名がつく始末。何とかしたい一心で訪ねたのが、日本で唯一の「気象神社」。下駄の形の絵馬を奉納して、脱・雨女を祈願した。今、計画している還暦の記念旅行、きっと、これで大丈夫。(MI)

わかしお班：千葉県にもデフリンピック選手が大勢いらっしゃいます。私の身近でもサッカーで出場する高木桜花選手が活躍します。「背番号10」試合会場は福島県なので現地には行かれませんが、応援しています。「フレーフレー日本」手元に届いた時には嬉しい報告ができますように。(KK)

印西班：印西市福祉まつりで、印西の民話を素話する（声、表情、身振り、手振りだけで話す）グループと手話サークル会員が昨年からコラボ。手話サークル新聞で担当した方の感想を読むと、手話の魅力を改めて強く感じられたよう。印西の魅力ある素話の数々と魅力ある手話、この取り組みが広がり続くとよいなと感じています。

市川班：ここ最近めっきり寒くなり鍋の季節到来ですね！我が家の鍋と言えば「おでん」。以前ご案内しましたが我が家でのナンバーワン具材は大根、卵を抑え、なんと「里芋」です。ほんのり甘くてからしとの相性もばっちりです。ぜひお試しください。そうそう市川駅からちょっと歩くのですがおいしいおでん種屋さんがあります（北口のGEO前）。いい出汁が出ておすすめです（店名はインターネット等でご確認を）。こちらもおすすめです！

六つ星班：最近違う研究をしているのだが、そちらにも当てはまる事。それは意味が大事だと言う事。一般的な言語通訳の場合はお互いの持っている情報量が同じであれば、その言語が指している意味(意図)は何か？が伝わらない事には全てが成立しないのが分かった今日この頃です。

海匝地域班：1年は早いです。広報12月号が届く頃には、デフリンピックも終わりですね。11月22日は、ろう協会、サークルとデフリンピック観戦ツアー、楽しみです。11月29日は、市内のボランティア団体のイベントで、毎年手話コーラスの発表を行います。市長さん、手話を覚えて、当日参加してくださいませ。今年も、健康で1年が終わりそうです。



松戸班：地域団体で企画したセミナーや市の防災フェアがあったので、継続して学ぼうと、今回防災クイズを利用して日頃の行動や、備えについて確認しました。雑談を交えたり横道に逸れたりしながら、楽しく学ぶことができました。繰り返し機会を設け、積み重ねていくことが大切ですね。(KIM)

かずさ班：デフリンピック開会式が開催されました。東京都に行かなくてもオンラインで視聴できることに、そして地域のろうあ協会、手話サークル、手話関係者が集まることができ皆さん感激！ 仲間の大切さを痛感しました。開会式での子どもたちの演技が素晴らしかったと声がありました！

八千代班：植物を育てるのが苦手である。過去いろいろダメにしているの、「見るだけ～」にとどめている。ところが先日、「最後の一個、持って帰って！」を断れず、直径3センチ球形のサボテンをいただいた。ネットで育て方を調べ、(痛手を最小限に抑えるため)100均で肥料などを買い現在に至る。まだ大丈夫です♡

八街班：ホタルイベントで、ファンになってしまった。東京デフリンピックの陸上選手の長内智選手(佐倉市出身)。11月21日22日23日の競技がYouTubeで生配信！これは凄いです。現地に行ってサインエールを送りたかったけど…生配信で応援します!!

## 東京2025大会PRカー到着！セレモニー報告

11月14日(金)、16時から17時まで国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター棟前の広場でセレモニーが開催されました。

秋晴れの寒くもなくとても気持ちの良い中で、大勢の人に囲まれて行われました。司会は、全日本ろうあ連盟の小林泉理事が、そして国際手話を嶋本恭規理事が務めました。今年の6月に岩手県盛岡で開催した全国ろうあ者大会を皮切りに北から、そして南からの2台のPRカーが全国47都道府県を巡って気運醸成を図って来ました。明日の開幕に合わせて東京に到着を祝ってセレモニーが開催されました。セレモニーの最初は秋田竿燈まつりの5つの技の披露がありました。提灯には「デフリンピック」と書かれていました。いよいよPRカーが東京都聴覚障害者連盟の人達を先頭にして入場してきました。東京都聴覚障害者連盟の栗野達人会長からあいさつ、石橋大吾理事長のあいさつ、そしてたつのおとしご連の阿波踊り。登場した4人の子どもは「どんぐりころころ」を手話付きで紹介してくれました。踊りの最後は、会場の参加者といっしょに阿波踊りを踊りました。東京2025デフリンピック公式マスコットの「ゆりーと」が登場し、記念撮影でセレモニーが無事終了しました。



(広報部長 渡辺 正夫)

役員短報
------

日時：11月2日（日） 9：30-12:15  
 会場：オンライン  
 参加者：16人

<主な議題>

○三役

- ・秋穫祭について  
バザーと販物品販売を行う。  
役員とサポーターズで担当する。
- ・手話を考えるフォーラムについて  
2月11日(水・祝) 9:00-17:00  
千葉県文化会館で開催。  
統一テーマを考えて11月12日(水)  
までに千聴協へ回答する。

- ・必携について  
形式を揃えて作成する。

○広報部

- ・11月号 キャラバンカー特集（会員の協力により掲載）
- ・12月号掲載記事内容の確認

○組織部

- ・会員拡大 330人（10月31日現在）
- ・南総地区講座 3月1日(日)予定  
中央地区講座 2月7日(土)予定
- ・安否確認訓練 10月18日(土)実施  
改めて目的を明確にする。  
災害ML 担当者を防災・減災担当者に位置づけて取り組む予定。
- ・地域班会議 12月7日(日)開催。

○関東通研

- ・11月29日(土) 支部代表者連絡会議  
午後に学習担当者会議が開催される。  
事前アンケートの回答内容を確認。

<部・班の報告>

○三役から

- ・情報提供施設事業運営委員会  
10月31日(金) 11月12日(水)
- ・三団体会議  
10月31日(金)、11月13日(木)

○広報部

- ・11月25日(火) 8:00-9:00 部会開催

○組織部

- ・富津市いきいき百歳体操（手話通訳付き）の紹介。地域班へ情報提供する。

<https://youtu.be/a4rGk0b0104?si=gG0DyUpmqLESDF93>

○N-Action ちば

- ・関東通研 N-Action 学習会  
2月1日(日) 埼玉県で開催

○研究部

- ・10月19日(日) 部会開催  
デフリンピックを研究部活動に繋げていく。
- ・2026年度の活動について協議

○医療班

- ・10月26日(日) 学習会開催

○健康対策班

- ・12月13日(土) 20:00-21:00 学習会

○保育・子育て支援班

- ・1月25日(日) ミニ講演会を開催予定

○ろう教育班

- ・10月25日(土) 千葉聾学校銀杏祭  
部員4人+教師3人

○事務局

- ・12月14日(日) 中間監査

○後援会

- ・11月8日(土) 理事会
- ・11月23日(日) 秋穫祭

今後の予定
-------

- 12月6日(土) 統一試験
- 12月7日(日) 地域班会議・役員会
- 12月13日(土) 健康対策班学習会
- 12月20日(土) 組織部会議
- 12月21日(日) TMG 学習会  
医療班学習会
- 12月23日(火) 広報部会議
- 12月26日(金) サポーターズ印刷日

2025年お世話になり、ありがとうございました。  
 2026年もよろしくお願ひします。

## お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス  
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

QRコードでホームページに  
アクセスできます。

会員専用ページは  
パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail: [syuwa@nifty.com](mailto:syuwa@nifty.com)

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本名  
もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は12月15日(月)です。

E-Mail: [c-koho@c2ken.sakura.ne.jp](mailto:c-koho@c2ken.sakura.ne.jp)

FAX: 043-247-1201(早朝・深夜は不可)

## 会費の納入のお願い

2025年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以下  
のとおりです。なお、申し訳ありませんが振込手  
数料はご負担ください。複数人まとめての納入は  
全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円(聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号: 00120-4-708239

加入者名: 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回まで  
無料です。

## けいわん 110 番

＜医療的な相談窓口＞

滋賀医科大学社会医学講座(衛生学)

TEL: 077-548-2187

FAX: 077-548-2189

＜仲間を守る取組みに関する相談窓口＞

FAX: 057-451-3281

\*何かありましたら、いつでも、ちば通研健  
康対策班に、ご相談ください。

FAX: 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練  
をしています。最近、災害はいつ起きてもお  
かしくない状況です。そのため、会員の安否確  
認をよりスムーズにするため、専用のフォーム  
を開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1TCt53>



## あ と が き

あっという間に12月になってしまいました。  
これから年末まで一気に走り抜ける・・まさに「師走」ですね。振り返るとさまざまな出来事があった一年でした。デフリンピックが開催され、デフスポーツやアスリート達、また手話が大変注目された年でもありました。この盛り上がりがこのまま終わることなく次に繋がっていくことを願っています。(IT)

今年もあとひと月足らずとなりました。慌ただしい日々ですが、来年の1月号の地域班通信は「デフリンピック縛り」です。会場へ応援に行かれた方、YouTubeで応援した方々からの感想とかエピソードなどをお待ちしています。感動冷めやらぬうちに原稿の準備をお願いいたします。(K)